

平成27年度病害虫発生予報第4号

平成27年 7月 3日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並 (やや遅い)	県全域	6月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 7月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	紋枯病	やや多い	県全域	6月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 前年の発生量が多い 7月の降水量は平年並が多い	± + ±～+
	セジロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い	+
	カメムシ類	やや多い	県全域	畦畔における6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±

・ 防除対策

[イネ・紋枯病]

病斑が上位葉に伸展する前に、モンカット粒剤、オリブライト250G、モンガリット粒剤などで防除しましょう。

[イネ・ツマグロヨコバイ]

発生が多いほ場では、トレボン粒剤、ベストガード粒剤、スタークル/アルバリン粒剤などで防除しましょう。

[イネ・カメムシ類]

本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参照してください。

・ 留意事項

イネいもち病(葉いもち)は、例年、7月上旬に発生しますが、本年の発生時期は平年よりやや遅くなると予測します。発生を確認したら、適切に防除しましょう。なお、各地の感染好適日は、本日発表の「いもち病(葉いもち)情報第2号」を参照してください。

本田でセジロウンカの生息を確認しました。なお、トビイロウンカは現在のところ発生を認めていません。詳細は本日発表の「ウンカ情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量はやや少ない 7月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	ミカンハダニ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	粘着トラップにおける誘殺数はやや多い 6月のイヌマキにおける発生量はやや多い	＋ ＋
ナシ	黒星病	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	シンクイムシ類	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 6月のモモの被害新梢率はやや高い	± ＋
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温はほぼ平年並	＋ ±
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	灰星病	平年並	県全域	4月の花腐れの発生量は平年並 7月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並	＋ ±
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	6月の被害葉率はやや低い フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	－ －
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温はほぼ平年並	＋ ±
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	べと病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月のイヌマキにおける発生量はやや少ない	± －
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	コナカイガラムシ類	多い	県全域	6月の発生量が多い	+
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	-

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

被害葉、被害果は見つけ次第取り除き、園外へ持ち出し適切に処分しましょう。デランフロアブル、マネージ水和剤やストロビードライフフロアブルなどで防除しましょう。

[ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ]

7月1日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

[ナシ・黒星病]

本日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

[ナシ・シンクイムシ類]

フェロモントラップにおける誘殺状況に注意して、フェニックス顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤などで、他の園への飛散に注意して防除しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

多発生園では、ダニゲッターフロアブルやスターマイトフロアブルなどで、他の園への飛散に注意して防除しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

収穫までの日数に余裕のある多発生園では、スターナ水和剤、バリダシン液剤5などで防除しましょう。収穫前日数及び他の園への飛散に注意してください。また、早期落葉を防ぐために、収穫終了後にICボルドー412などで防除しましょう。

[モモ・ナシヒメシンクイ]

芯折れは見つけ次第取り除き、処分しましょう。芯折れが多く見られる場合は、アクタラ顆粒水溶剤、フェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

[モモ・ハダニ類]

多発生園では、ダニゲッターフロアブルやスターマイトフロアブルなどで防除しましょう。また、早期落葉を防ぐために収穫終了後にカネマイトフロアブル、コロマイト乳剤などで、他の園への飛散に注意して防除しましょう。

[ブドウ・べと病]

ブドウべと病は、降雨が続くと急速に蔓延するおそれがあります。

有袋栽培では袋かけ作業を急ぎ、袋かけ後にICボルドー48Qで防除しましょう。

無袋栽培又は袋かけが終わる前に発生量が多くなった場合は、ランマンフロアブルやホライズンドライフフロアブルなどで防除しましょう。

[カキ・コナカイガラムシ類]

多発生園では、スプラサイド水和剤、コルト顆粒水和剤（フジコナカイガラムシ対象）などで防除しましょう。

・留意事項

ウンシュウミカン、ブドウ及びカキのチャノキイロアザミウマ第3世代（一部、第2世代）成虫の発生ピーク時期が近づいています。7月1日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参考に、成虫発生ピーク時期に防除しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	アブラムシ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 黄色水盤、黄色粘着トラップに おける誘殺数は平年並	± ±
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い	+
	アザミウマ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い	+

・防除対策

[キク(露地)・白さび病]

発生ほ場では、アミスター20フロアブルやジマンダイセンフロアブルなどで防除しましょう。なお、耐性菌の発生が心配されるため、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション散布を行いましょ。また、被害葉は切除して適切に処理しましょ。

[キク(露地)・ハダニ類]

発生ほ場では、カネマイトフロアブルやコロマイト乳剤などで防除しましょ。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション散布を行いましょ。

[キク(露地)・オオタバコガ]

発生ほ場では、プレオフロアブルやディアナSCなどで防除しましょ。

・留意事項

アザミウマ類が多発しているほ場があります。発生状況を確認し、発生ほ場では、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行いましょ。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台7月2日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い: 30% 平年並: 40% 高い: 30%

〔降水量〕 少ない: 20% 平年並: 40% 多い: 40%

〔日照時間〕 少ない: 30% 平年並: 40% 多い: 30%

農薬危害防止運動実施中 (6月1日から8月31日まで)